

私が専門看護師になった理由（わけ）

矢野 和美 （東京通信病院）

今回のテーマ「私が専門看護師になった理由」は、患者さんとのかかわりの中で得られた疑問や課題を、なかなか解決できなかったことが大きく関わっている。疑問や課題を解決するために色々と調べた。「傾聴する」、「共感する」、「受容する」、「寄り添う」参考書には沢山のケアが書いてあった。そして、このようなケアをすることの大切さを知った。しかし、私自身、どうしたら本当の意味でこのようなケアができるのかわからなかった。形だけのケアではないか、自問自答した。しばらく、どんなことを大事にして看護を続けていったらいいのか、深い霧の中をさまよいつづけていた気がする。ある時、ふと「患者さんやご家族がその人らしくいられるような看護がしたい、そういうことを私は大事にしたい」と思った。がんの分野には、専門性を学べる資格が沢山ある。私の場合は、緩和ケアや化学療法看護など分野分野で細分化された看護を学ぶというよりは、病期や治療法などの種類にとられない、対象をまるごと看護することができる「がん看護」を学んだ方が疑問や問題を解決することができるのではないかと考えた。そして、私は専門看護師の道へと進んだ。

専門看護師教育課程を振り返ると、がん看護の真髄を学んだ2年間だったと思う。人が病むということはどういうことなのか、がんと共に生きるということはどういう体験なのか、自分の看護観や死生観・・・、と向き合い、熟考する日々であった。今回のセミナーで今までの道りを振り返り、私は心の底から、「専門看護師になってよかった」と思う。こんなに人の強さや力を身近で感じ、そしてその力を次に出会う人につなぐことができる、こんな素敵な仕事は、そんなになんかと思わない。だからこそ、私はこの先も専門看護師をやめることはないだろう。
